



ほっかいどう
生涯学習
Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

●年頭のご挨拶	2	●わがまちの生涯学習	5
●生きがいつくり生涯学習促進事業のご紹介	3	●随想12	6
●平成22年度ほっかいどう学検定の実施状況	4	●新会員紹介・事務局からのお願い	6
●私の生涯学習	4		

生きがいがづくり生涯学習促進事業のご紹介

◆11月10日（水）本別中央公民館を会場に36名の住民の方々が参加するなかで、「人生を共に豊かに過ごすために」をテーマに開催されました。

当日は、インタラクシオン研究所の安田睦子氏の「社会参加を通じた生きがいがづくり～いつまでもいきいきと暮らすために～」と題した講演のほか、本別町体育協会の大西光夫会長を指導者に、趣味・教養・余暇の上手な使い方・交流の仕方や健康づくりのための運動や体操についてのワークショップが行われました。



本別町



美幌町

◆11月19日（金）美幌町保健福祉総合センター（しゃきっとプラザ）を会場に、町内「らんざんの会」のきらり女性セミナーとの合同で開催されました。

当日は、インタラクシオン研究所の安田睦子氏の「これからのまちづくりに求められるもの」と題した講演のほか、オホーツク教育局社会教育指導班の小熊主査の指導による小グループに分かれて、「ご近所の底力をどのように高めていくか」などについてディスカッションが行われました。

◆11月24日（水）利尻富士町保健福祉センターで「余暇を有意義に過ごすための教養について」をメインテーマに、宗谷教育局社会教育指導班棚橋主査から実例を交えた講話や「ほっかいどう学検定にチャレンジ」などクイズ形式の検定問題に真剣に挑戦しました。

その後、北海道中央研究所の門間奈月氏の指導で「毎日できるかんたん運動」として実際に体を動かして、健康維持のための体操やストレッチの重要性を学ぶなど、頭脳と身体を活性化することができた有意義な一日でした。



利尻富士町



豊浦町

◆12月6日（月）豊浦町地域交流センター（とわに一）を会場に、豊浦町とようら大学との合同で開催されました。

当日は、植松電機専務取締役の植松努氏の「人生を共に豊かに過ごすために」と題した講演のほか、胆振教育局社会教育指導班澤田主査のコーディネーターによる「生きがいがづくり」について4名のパネラー提言をもとに、「子どもの学習支援のために自ら学習活動をするのが生きがいに繋がる」など、熱心なパネルディスカッションが行われました。

平成22年度ほっかいどう学検定の実施状況

平成22年10月31日（日）全道5会場で3回目になる「ほっかいどう学検定」が実施されました。今年は、6カ所の委託会場を加えて、小学4年生（10歳）から79歳の道民の方々が難問にチャレンジし、363名の方が合格書を手にされました。受検者の状況は表のとおりです。

受検者数及び合格者数

		申込者	欠席者	受検者	受検率	合格者	合格率
歴史・文化	入門	161	14	147	91.3%	88	59.9%
	上級	111	4	107	96.4%	100	93.5%
	小計	272	18	254	93.4%	188	74.0%
自然環境	入門	112	16	96	85.7%	72	75.0%
	上級	114	4	110	96.5%	103	93.6%
	小計	226	20	206	91.2%	175	85.0%
合計		498	38	460	92.4%	363	78.9%

私の生涯学習

発想の転換を ～高齢者の就活・婚活？～

ふるさと再生塾塾長 小山 忠弘（北海道生涯学習協会評議員）

卒寿（90歳）の男性が喜寿（77歳）の女性と結婚するというストーリーのコメディ「シルバー結婚行進曲」を、12月初旬北広島市芸術文化ホールで観た。北広島市と栗山町の演劇サークルが合同で上演し、満席の観衆の大きな拍手と笑いを誘った。

パンフレットのはしがきに、「昔の年寄りと今の年寄りとは、まるで違う 年寄りとか老人なんて呼んでほしくない プラチナ世代 シルバー世代など呼び方もおしゃれだ 後期高齢者といわれても まだまだ元気である」と書かれていた。65歳以上を高齢者とする我が国の画一的な線引きによる高齢者対策へのレジスタンスでもある。

老人福祉法第3条2「老人は、その希望と能力とに応じて、適当な仕事に従事する機会その他社会的活動に参加する機会を与えられるものとする。」これからは子どもの数が増えないのだから、高齢者が多くなり、高齢化率が高くなるのは必然のことである。高齢化率の高い町村は活力がないなどと一概には決めつけるべきではない。「70歳 オラが村では 青年部」「恋の文字 八十路過ぎても ゆるむ頬」の川柳のように、道内で80代でも地域の文化・芸術・産業など多方面で活躍している人は数多くいる。

一例として、旧穂別町（現むかわ町）の高齢者による映画づくり「田んぼdeミュージカル委員会」代表の原田幸一さん（85歳）は、第1作「田んぼdeミュージカル」、2作「田んぼdeファッションショー」、3作「いい爺ライダー」を制作し、現在90歳の人も参加して4作目に取り組んでいる。こうした活動が、総務大臣賞、スポニチ文化芸術大賞、フランス国営テレビ取材、高校教科書「現代社会」の副読本採用へと発展している。合併後のまちづくりや経済の活性化に役立っており、まさに高齢者の知恵とパワーを還元する「就活」そのものである。今は、40代50代の人たちが出来ないことを、高齢者が担わなければならない時代であり、新しい事業を興やすことが期待されている時代でもある。

昨今、人生の最後をどう迎えるかという終末活動、つまり「終活」が注目されているが、もっと前向きな発想をし、これまで蓄えたチエヤワザを地域の活性化のために存分に還元されることを期待したい。婚活は若い世代とは限らない。70代80代からの婚活にも熱い思いを燃やしていただきたい。こうした活動こそが、これまでの高齢者観を変える生涯学習活動なのである。

わがまちの生涯学習

千歳市教育委員会

千歳市における「我がまちを想う情熱・自主的な活動・人とのふれあい」を大切にしながら開催している市民協働事業の代表的な事例を紹介します。

平成22年8月1日に千歳市総合福祉センターで「みんなで・ひと・まちづくり委員会」主催の「2010七夕祭・みんなで作る・楽しむ・交流する祭」を開催いたしました。

この事業は、本年が3回目で「ひと・まちづくりリーダー養成」として、J8サミット2008千歳支笏湖の開催を記念し、歓迎ムードを盛り上げようと市民活動の実施を一般市民に呼びかけたところ、中学生や高校生から高齢者まで19名が集まり企画開催した事業です。

環境問題について「届けたい、この思い。伝えたい、この気持ち。」として「七夕祭・短冊づくり」、アイヌ民族の伝統楽器の「ムックリづくり」や、ものづくりチャレンジのコーナーの設置、さらに、七夕祭に合わせた演奏・創作の発表などを行い、市民約500名の参加のもと賑やかな祭りとなりました。

また、第15回目を迎えた、「ふるさとポケット」は、9月27日に青葉公園で開催いたしました。「人の魅力でまちが輝く」ことを目指し、ふるさと千歳の再発見の場として多くの市民の参加のもと実施いたしました。

当日は、幼稚園児から小学校3年生までが描いた過去最高の1,600点の作品展による森のギャラリー、福祉団体による活動紹介や作品販売の「はりきりグループ」、市内県人会による「お国自慢味処」、ステージ発表の「森の舞台」、手作り紙芝居や絵本の読み聞かせの「図書館グループ」などとネーミングをつけたグループ毎に活動成果の発表など市民の約17,000人の参加の中で活気にあふれた市民活動の祭典となりました。

この他、学校と地域が連携した地域ならではの事業も数多く実践されています。

市民の憩いの場所である公園を活用した「あおば学習」、千歳川をカヌーで下る「カヌー体験」、サケや蛍の飼育をする学習、地元のアイヌの方々を招いてのアイヌ文化学習や味噌や飯鮭しなどを作るふれあいサークル等々ですが、いずれの活動も地域の方々の協力をなくして成り立たないものばかりです。

こうした活動は、総合的な学習時間を活用していますが、本市では一年間の学習の成果を発表し合う場としてサイエンス会議を開催しています。

この会議は、地元の千歳科学技術大学から場所や機材の提供だけでなく、学長を始め多くの関係者が出席され、最後は講評までお引き受け頂くなど大学の全面的な支援を得ている有意義な発表会であります。

紙面の都合で限られた事業だけの紹介になりましたが、本市では生涯学習や学校が元気に事業を推進していることを申し添えます。

(教育長 小林 義和)

地域に根ざし、福祉とビジネスの両輪を力強く

北海道リハビリ

札幌さっぽろ
目黒一級白丸・車椅子製作販売(ユニフォーム等)
社会福祉施設(24時間体制)・介護・福祉サービス
TEL:011-857-1111 FAX:011-857-1113
社会福祉学部
TEL:011-857-2099 FAX:011-861-3673

ポプラズ
福祉法政センター
福祉法政センター
福祉法政センター
福祉法政センター
TEL:011-858-1001 FAX:011-858-2100

リハビリグリーンズ
グループ(リハビリセンター)・リハビリセンター
TEL:011-375-2112(代) FAX:011-375-4052

リハビリ・エイト
短期(リハビリセンター)・短期(リハビリセンター)
短期(リハビリセンター)・短期(リハビリセンター)
TEL:011-375-2118(代) FAX:011-375-2119

リハビリ・おおぞら
グループ(福祉センター)・グループ(福祉センター)
TEL:011-375-2112(代) FAX:011-375-4052

社会福祉法人北海道リハビリ
〒061-1195 北海道北広島市西の里507番地1
TEL:011-375-2111(代) FAX:011-375-4051 www.selp.net
理事長 奥野 一之 常務理事 平沼 栄二

取扱品目

office network service
事務用ネットワークサービス

サンコー事務機株式会社
〒060-0613 札幌市中央区北13条西1丁目24番30
電話 011-614-2255 FAX 011-614-5245
homepage: http://www.sankoh.gr.jp/
e-mail: info@sankoh.gr.jp
お気軽にご相談ください。

山藤三陽印刷株式会社
〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1
[営業部] TEL:代表(011)651-7163 FAX:(011)661-7173
東京支店/TEL:(03)3518-4631
苫小牧営業所/TEL:(0144)84-5930

随想12

珍しい名前のお話

ヘクソカズラという変な名前の植物がある。アカネ科ヤイトバナ属に属するという。8月から9月にかけて咲く蔓性の多年草らしいが、白く長い花の中央部がお灸の跡に似ているので灸花（やいとばな）ともいうとされる。「屁糞蔓」でヘクソカズラとなるらしいが悪臭を放つのでこの名が与えられたとのこと。それにしても灸花が「やいとばな」で、屁糞蔓の和名を与えるとはなんと頭の良い人が名付けたものかと不思議に思う。動物にも同じような例があるのであろう。

難読な読み方のひとつに地名がある。北海道の場合は大半がアイヌ語地名から由来しているので、それに難読な漢字を当てはめたものが多い。例えば、道東の釧路町の海岸部には読めない地名が多い。重蘭窮（チブランケウシ＝舟を下ろす処）、去来牛（サルキシ＝芦の群生する処）、知方学（チッポマナイ＝魚のいる沢）、老若舞（オシャマツプ＝川尻に鮭鱒産卵場のある川？）、今遺瀬（カワチャラセ＝水がちゃら

ちゃら崖を落ちる）、浦雲泊（ポントマリ＝小さい泊地）などである。

ほとんどの方はまともに読めない地名であろう。カタカナ書きされていたアイヌ語地名に漢字を当てたのであるが、おそらく明治時代の頭の良いお役人の仕業であろうと思う。これらは迷惑な表記であり、元のカタカナ書きに戻したほうが良いのではないだろうか。

人名にもおかしな苗字がある。昔、大学時代の先輩に「奥」という苗字をもつ女学生がいた。私たちはふざけて「奥さん」と遠くから呼んでいたが、彼女は「奥ちゃん」と呼んでくださいといつも言っていた。つまり、独身の彼女は奥さんではないからである。今頃はどなたかに嫁いで本当の奥さんになっているのであろうか。軽く笑える名前を紹介したが、ほかの人名のことはあえて触れないことにする。ともかく固有名詞は厄介者であり、間違えてはいけないものである。

(財)北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新会員紹介

次の方々が新たに賛助会員になりました。今後ともよろしく願いいたします。

個人会員

- ・成田 洋 司 (札幌市)
- ・高村 千恵子 (札幌市)

ご寄付
ありがとうございます
でございます

平成22年10月29日、(社)北海道ゴルフ倶楽部から社会教育事業に対する助成として、当協会に寄付してくださいました。

事務局からのお願い

- ・会員の皆様で住所が変わられた方は、お手数ですが事務局までお知らせください。
- ・協会では皆様のご支援ご協力により各種事業に取り組んでおります。つきましては、年度末を控えておりますので、恐縮に存じますが、会費未納の方は早めの納入について 宜しくお願いいたします。

編集後記

- ・あけましておめでとうございます。
- ・地球温暖化の影響で暖冬少雪を危惧していたのですが、厳しい寒さを体感して、まだまだ地球も捨てたものではないと思うのは私だけでしょうか。
- ・先日、ツルツル路面に足を滑らせ不覚にも腰を強打した私に、電車の中で若者が席を譲ってくれました。自分さえよければという個人主義が蔓延しているなかで、思いやりを行動で示す若者がいることに、明るい未来を感じて

感動しています。

- ・昨年末、道教委から広州大会の陸上で、百と二百の二冠に輝いた福島千里選手に北海道スポーツ賞特別表彰が贈られました。「ほくも私も」と、夢に向かってチャレンジする小中学生が出現してほしいと思います。
- ・当協会では、多くの道民の皆様の自発的な学習活動を支援出来るように、今後とも各種事業を推進して参る所存ですので、皆様の更なる深いご理解と暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。